

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

令和6年12月5日(木) 5校時

授業者 栗山 有紀

6年松組 25名

1 単元名 「気候変動に挑む 脱炭素を目指して

～コウノトリと共に生きる板東 未来へつなぐ私たちの思い～」

2 単元の目標

「認定 NPO 法人とくしまコウノトリ基金」をはじめ、「エコみらいとくしま」、「松浦酒造」、「ビオトープ米農家」、「CSA 風土」、「徳島大学」と連携した体験活動を通して、コウノトリの繁殖を支える蓮田の減農薬、有機農業への取組や脱炭素化への取組を知り、環境問題について考えるとともに、コウノトリが飛来し、毎年繁殖に成功している豊かな環境で学習できる、板東の地域の素晴らしさや良さを理解できるようにする。そして、誇りをもって、地域の一員としてこれからを担う自分たちにできることを考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

3 単元について

(1) 単元設定の理由

本学級の児童は、明るく、何事にも興味をもって積極的に取り組む。テレビや新聞、インターネットなどから、情報を得たり、関心をもったりする児童も多い。蓮根掘りを体験したり、大麻比古神社の年中行事に関わったり、農業体験をしたりする児童も多い。校区の近いところにコウノトリの巣があり、校区内でも餌を探して散策する姿や飛んでいる姿を目にすることがある。コウノトリの様子は、ケーブルテレビや鳴門市の広報でも取り上げられ、地域に親しまれ、愛されている。コウノトリの雛が生まれ、育っている過程を見守る中で、コウノトリの様子や災害時にコウノトリのことを心配する声が児童の間で高まっている。現代社会においては、日本だけでなく、世界中で気候変動による地球温暖化の影響を受けている。季節外れの台風や突発的なゲリラ雷雨、気温の上昇といった野菜や米などの農作物の生育不良、販売価格の高騰化など、様々な気候変動により地球温暖化の影響を身近に感じるようになった。自分たちの生活の中への悪影響も感じながら、将来を危惧する児童も増えている。そこで、気候変動問題と板東に飛来しているコウノトリの現状を関係付け、コウノトリと共に豊かに生活し続けることができるよう、自分事として捉え、自分達にできることは何かを考えることができるよう、この単元を設定した。

(2) 教材について

「認定 NPO 法人とくしまコウノトリ基金」をはじめ、「エコみらいとくしま」、「松浦酒造」、「ビオトープ米農家」、「CSA 風土」、「徳島大学」と連携することにより、体験活動を中心とした学習が期待できると考えた。体験活動を通してコウノトリの繁殖を支える蓮田の減農薬、有機農業への取組や脱炭素に取り組む企業の話や、農地の多面的機能についての話を聞く。身近な地域での様々な取組を知ることとコウノトリの生態を知り、観察をすることでより愛着をもって学ぶことができる。

そして、環境問題に関わる実情や課題を知り、脱炭素化の取組を学ぶとともに、その取組のよさや効果を考えながら、板東のコウノトリについて、地域の宝として、もっと愛着をもって守っていききたい、環境問題として自分事として捉え、考えることができるようになってほしい。そして、考えたことを様々な方法を使って、地域の人や関係者等に発表したり、発信したりすることができる地域に寄り添う教材と考える。

4 単元の評価規準

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①「コウノトリ」や「地球温暖化」「脱炭素」についての知識を深め、携わる人々の思いや願い、取組の意図を理解することができる。 ②課題を捉えるために、目的や対象に応じて必要な情報を収集したり、体験したりしている。 ③探究的に学習してきたことの成果に気付き、コウノトリを守り、住み続けることができる環境をつくっていくことが地球温暖化につながることを理解することができる。	①「コウノトリ」と「地球温暖化」について関連していることを探る課題を設定するとともに、解決に向けて見通しをもっている。 ②課題解決に必要な情報を、適切な方法で収集している。 ③課題解決に必要な情報を、取捨選択したり、比較したりするなどして、課題解決に向けて考えている。 ④伝える相手や目的・意図を意識して考えをまとめ、適切な方法で提案したり表現したりしている。	①「コウノトリ」や「地球温暖化」について関心をもち、コウノトリを守り、住み続けることができる環境をつくっていくことが地球温暖化につながることに気付き、自分事と捉え、探究活動に進んで取り組もうとしている。 ②課題解決に向け、他者と協働して探究活動に粘り強く取り組もうとしている。 ③板東のよさや現状、課題に気付き、地域のために地球のために、自分ができることを考え行動している。

5 指導計画と評価の計画（４８時間）

小単元名 (時数)	ねらい・学習活動 (時数)	知	思	態	指導のポイント (関連する教科等の活動)
1 知ろう！脱炭素×農業の取組とコウノトリ	・コウノトリの生態について知る。 ・地球温暖化について知る。 (４時間)	①	①	①	・コウノトリのえさ、住处、生態、大きさなどに興味をもつことができるように展示物や掲示物を工夫する。(図画工作科) ・コウノトリを大切にしようという心情を育てる。
	・二酸化炭素の削減に貢献する地域の農業①について知る。 ・田植え体験 (４時間)	②	②	①	・「ビオトープ米でお酒を造るプロジェクト」の取組について田植え体験を通して、感じたことをまとめる。 ・話をしてくれる内容を講師の方と事前にしっかり打ち合わせておく。
	・農地等の多面的機能について知る。 (１時間)	① ②			・話をしてくれる内容をしっかりと聞き、理解できるようにする。
	・海外(スリランカ)の温暖化の影響について知る。(JICA 国際協力隊南優香先生との交流) (４時間)	②	②		・板東小学校について知ってもらい、地域の環境問題やコウノトリについて簡単に発表できるように準備をしておく。 ・事前に児童からの質問に対して、応答となるような内容、質問コーナーなどを通して交流を深めることができるようにする。
	・「脱炭素×農業」について他県の取組や徳島県の取組について調べ学習をしてまとめる。 (夏休み)	① ②	② ③	① ②	・脱炭素と農業についての関連をもたせ、他県や企業の取組や徳島県での脱炭素に向けた取組を調べて、興味をもつことができるようにする。 ・コウノトリの観察を通して、さらに愛着を深める。

2
考えよう！コウノトリと共に生きる私たちにできること

・「脱炭素×農業」について調べ学習をしてまとめたことを発表する。 (3時間)	②	③ ④	① ②	・夏休みの間に調べたことを整理しながら、「食料システム戦略」について知り、関連し、つながっていることに気付くようにヒントとなるキーワードを提示する。
・二酸化炭素の削減に貢献する地域の農業②について知る。 稲刈り体験 (3時間)	②	①	①	・「ビオトープ米でお酒を造るプロジェクト」の取組について田植え体験を通して、感じたことをまとめさせる。 ・話をしてくれる内容を講師の方としっかり打ち合わせておく。
・調理実習(地産地消) 稲刈りで収穫した米、鳴門産わかめ、収穫した米でつくった味噌、鳴門金時、鳴門産蓮根を具材とした味噌汁を作る。CSA 金村真友子さんの地産地消や食品ロス の取組や話を聞く。 (3時間)	②	①	①	・地産地消や食品ロスがどのように脱炭素に貢献するのかを思い出させる。 ・捨てるところが少なくなるような切り方や皮など食べることができる部分を考えながら調理するよう声をかける。(家庭科「食べて元気に」、「できることを増やしてクッキング」)
・振り返りとまとめ① 「食料システム戦略」の4つの課程で、脱炭素とコウノトリが暮らしやすい地域づくり点から自分たちにできることを考える。(発表・提案) (本時6/9時間)	② ③	② ③ ④	① ②	・コウノトリと共に生きていく私たちに何ができるかを考えることができるよう例をいくつか提示する。 ○グループ討議 ○ワールドカフェ ○タブレットを用いた調べ学習(県内や県外で実施されている取組など) ・関連機関への質問等を通して、今自分たちにできること、提案してみたいことを整理させる。
・海外の児童との交流 (スリランカ) (6時間)	②	④	②	・自分たちが学んできたことを発表したり、スリランカの取組について質問したりする。 (外国語「学習した英語を使って」)
・振り返りとまとめ② 「食料システム戦略」の4つの課程で、脱炭素とコウノトリが暮らしやすい地域づくり点から自分たちにできることを考える。(発表・提案) (6時間)	③	② ③ ④	② ③	・単元を通して学習を振り返る。 ・一人一人が、自分たちにできることを発表できるようにする。 ・個々に役割をもって活動ができるようにする。 ・提案できる場や機会を設ける。
・フォーラムでの発表 (1時間)	③	① ④	③	・わかりやすく伝えることができるように、まとめ、練習をさせる。

	・地域の人に向けて参観授業や 全校集会での発表 (2時間)	③	④	③	・わかりやすく伝えることができるように、まとめ、練習をさせる。
--	-------------------------------------	---	---	---	---------------------------------

6 本時(30/48)

(1) 目標 調べた事実をもとに、グループで考えた方法や提案についての改善点を話し合い、共有することができる。

(2) 育てたい力 協働して学びを進める力

(3) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準及び評価方法
1 本時のめあてを確認する。	○ 前時までの学習を振り返り、意欲的に学習に取り組めるようにする。	
コウノトリと共に生きるために私たちにできることを考えよう。		
2 前時の内容から班ごとに改善点について話し合う。	○ 考える視点に沿った話し合いができるようにする。 ・コウノトリと共に生きる ・コウノトリにとってよい方法	○ 自分と異なる考えや意見を生かしながら、協働的に探究活動に取り組もうとしている。 (態②：行動観察) ○ 情報を整理し、課題解決に向けてよりよい方法を考えている。 (思③：行動観察)
3 話し合ったことを全体で共有する。	○ グループで考えた内容を相手に伝えることができるようにする。 ○ 目的に合った考えであるか、自分たちのグループとの共通点や差異点を考えながら、他のグループの考えを聞くことを意識させる。 ○ 意見や感想を伝え合う。	
4 本時の振り返りをする。	○ 自分たちが考えた方法や提案の改善点を考えることができたかを振り返らせる。	○ 改善点を考え、協働的に改善点を考えることができている。 (態②③：振り返りシート)

